

なら歴史芸術文化村 Journal

1
vol.

『なぜ?』

が芽生える。

『知る』

を楽しむ。



©NARA pref

「なら歴史芸術文化村 開村に向けて」

奈良県知事 荒井 正吾

メッセージ 「文化村への期待」

コラム 「文化村でみんなが学ぶ」

「文化村からつながる、文化村から広がる」

施設紹介 「来村者にやさしい文化村で楽しい体験」

『なぜ?』が芽生える。『知る』を楽しむ。

なら歴史芸術文化村 開村に向けて

奈良県知事 荒井 正吾



来る3月21日、なら歴史芸術文化村（以下、文化村）が開村します。歴史、芸術、食と農など奈良県の誇る文化に触れることができる施設として期待されています。

その活動理念は、対話による双方向のプログラムにより、来村者との交流を重視した取り組みを展開し、一人ひとりの感性や知識、関心に寄り添い、自発的な学びを支えることにあります。

また、文化村だけにとどまらず、山の辺の道など周辺の地域を一体としてとらえた地域振興の取り組みを展開すること、文化村における取り組みの質の向上を図るため、多種多様な分野の人脈を構築することも目指しています。開村に向けての思いを荒井正吾奈良県知事に語っていただきました。

開村に向けての第1幕 「構想の発端」

東京藝術大学の分室が奈良県文化会館の横にあるのですが、これを建て替えたいという話が当時の学長からあったのが構想の発端です。

県として、どのような施設が望ましいのかと考えたとき、アンドレ・マルローというフランスの文化相がパリ郊外に作った「ヴィラージュダルティスト」というアーティストが住んでいる芸術家村がヒントになりました。

当時はまだ、国際芸術家村との仮称で呼んでいましたので、2015年6月に「奈良県国際芸術家村構想等検討委員会」を立ち上げました。まずは、基本的なコンセプトを検討するところから芸術家村構想が動き出しました。

開村に向けての第2幕 「場所の選定」

設置場所は、奈良市近郊で敷地面積が確保でき、周辺に歴史文化資源や豊かな自然、静かな環境があるということで、現在の天理市杣之内町を候補として有識者会議で選定いただきました。用地の確保にあたっては、地方創生拠点整備交付金というハード整備に使える国庫補助金があり、交付を受けることができました。おおよそ100億円規模の事業ですので、国庫補助金を充当することができたのは県としてはたいへんメリットがありました。



開村に向けての第3幕 「施設機能の検討」

場所が決まりましたので、どういうコンセプトの取組展開や施設運営にするかということが課題になってきました。

その課題を議論する場として、2020年12月に、「なら歴史芸術文化村コミッション会議」を立ち上げました。

コミッションには、奈良県文化政策顧問の青柳正規先生に、委員には、芸術・文化に造詣の深い先生方に就任していただきました。

なら歴史芸術文化村は長期間にわたって芸術・文化活動の拠点となる施設ですから、具体的なプログラムの策定にあたって大いに論議していただこうということになったわけです。

施設面では、重点「道の駅」として選定されるとともに、ホテル「フェアフィールド・バイ・マリオット・奈良天理山の辺の道」が隣接地に開業すること

なり、様々な機能を有する非常に充実した施設として整備されることになりました。

開村に向けての第4幕 「活動の理念」

なら歴史芸術文化村での活動理念について議論する中で、創作活動は自己を肯定する自尊心や他の人を認める利他心の向上に役立つことがわかりました。

とりわけ就学前のお子さまにとっては、いろいろなことを観たり、聞いたり、描いたり、作ったりすることは大切なことだと思います。

文化村では、このように描くべきと教え込む体験ではなく、好きなように描いて楽しませようという体験を提供します。文化活動の本質は、楽しむことだと思えます。

なら歴史芸術文化村は、対話など双方方向の交流を通じて様々な体験を楽しんでいただく、他に類を見ない新しいタイプの文化施設だと思えます。

立地も、天理市の杣之内の高台にあり、大和国原を一望できる眺めの良いところですよ。

周辺には、山の辺の道や石上神宮なども点在し、素晴らしい自然環境の中で歴史文化が体感できます。

さらには、このような取組は、孤立して行うのではなく、地域と一緒に展開することが大切です。

食事や買い物を楽しめ、ホテルもある複合的な施設なので、経済の活性化や観光の面でも地域が活性化します。

さらには、公共団体が取り組む文化活動の振興には、「気持ちの膨らみ」の部分で様々な効果が期待できます。

若者を創造的にする、教育にも資する、高齢者の生きがいを作るなどの取組が、向上心を持つ、他者との調和を考える、健康になるなど、地域の生活や人心に繋がると思えます。

「文化振興から地域の活性化を」という、これまでには無かつ

た取組を、大きな実験として文化村で展開していこうと考えています。

最初は東京藝術大学の分室から始まった構想が、さらに発展し、将来に向けた大事な、芸術・文化の活動拠点になってきたように思い喜んでいます。

『なぜ？』が芽生える。『知る』を楽しむ。是非、文化村での体験を楽しんでください。



なら歴史芸術文化村の理念

対話による双方向のプログラムにより来村者との交流を重視した取り組みを展開し、一人ひとりの感性や知識、関心に寄り添い、自発的な学びを支えます。

3つのこだわり

- ・文化村でつながる、文化村から広がる
～地域の魅力を歴史や芸術とつなげて広く発信～
- ・来村者にやさしい文化村で楽しい体験
～サービスデザイン思考によるプログラムの実施～
- ・文化村でみんなが学ぶ
～来村者だけではなく、関係者全員が学べる～



「なぜ？」が芽生える。
「知る」を楽しむ。

なら歴史芸術文化村これまでの歩み

奈良県は、平成26年、奈良の特色ある文化・芸術を、現在に活かし後世に伝えるため、「なら歴史芸術文化村」の前身となる「(仮称)奈良県国際芸術家村」の整備に向けた検討を始めました。

平成27年6月には、有識者で構成する「奈良県国際芸術家村構想等検討委員会」を設置し、整備



第2回奈良県国際芸術家村構想等検討委員会(平成27年12月16日)

場所、基本コンセプト、運営や取組内容など、令和3年に至るまで10回を超える検討を重ねます。平成27年12月開催の第2回委員会では、周辺に歴史・文化資産や豊かな自然、静かな環境を有することから、天理市杣之内が候補地として選定されました。

平成28年に入り、不動産鑑定などの各種調査を経て土地を取得、施設機能・規模、整備工程等の基本計画を策定して、整備に向けた動きが本格化します。平成29年には、土地造成や建設の設計を経て、12月には造成工事に着手、また平成30年7月には建設工事に着手しました。この後、約4年間をかけ、令和4年2月に全ての整備工事が完了しました。

この間、県の文化施策における位置づけ、取組展開等についても検討を重ね、歴史文化と芸術文化を振興する拠点施設として、また、地域振興に寄与する施設として、令和2年10月に「なら歴史芸術文化村条例」を制定したほか、令和3年4月には「奈良県文化振興条例」においても県の文化振興の推進拠点として位置づけられました。加えて、より具体的な取組内容や運営の検討を行うため、有識者で構成する「なら歴史芸術文化村コミッション」を令和2年4月に設置し、協議を開始しました。



第1回なら歴史芸術文化村コミッション会議(令和2年12月21日)

官民連携での施設運営を行うため、令和3年3月には、レストラン・ショップ運営や施設管理などを行う指定管理者を選定し、併設する民設民営ホテルについても、平成30年12月の公募を経て「フェアフィールド・バイ・マリオット・奈良天理山の辺の道」が整備され、令和4年3月21日に同時にオープンします。また、本施設は、令和3年6月に県内2番目の重点「道の駅」に選定されています。

「文化村への期待」

なら歴史芸術文化村の開村をお祝い申し上げます

東京国立博物館名誉館長 佐藤 禎一



なら歴史芸術文化村は、奈良県の誇る歴史文化資源に触れ、質の高い文化芸術活動を体験できる拠点施設であり、平成27年に荒井知事が構想を発表して以来、年月をかけて丁寧な構想が纏められてきました。

同年に発足した「奈良県国際芸術家村構想等検討委員会」は、令和2年の8月に至るまで12回の会議を開き、平成28年、29年に県が策定した基本構想、基本計画をめぐり様々な観点からの助言を行ってまいりましたが、具体的な実施段階に至り、なら歴史芸術文化村コミッションに引き継がれ、この度開村に至りましたこと、慶賀に堪えません。多くの期待を担ってのご出発をお慶び申し上げますとともに、積極的なご活動にご期待申し上げます。

なら歴史芸術文化村オープンのお祝い

洋画家・文化勲章受章作家 絹谷 幸二



なら歴史芸術文化村オープン、誠におめでとうございます。今日この時代に、私のふるさとである古都奈良に文化村が開場されますことは、まさにすばらしく大変喜んでおります。

コロナ禍の中、心が委縮し、ずさんでいますこの時期こそ、かつて欧州ペスト禍の後、ルネッサンスの花が開いたのと同様、この文化村が人々に勇気と進取の気持ちを生み出すことを願ってやみません。

なら歴史芸術文化村への期待

第8代ユネスコ事務局長 松浦 晃一郎



奈良県は「古都奈良の文化財」を始めとする3つの世界遺産が存在することが示すように、非常に重要な日本の文化遺産が存在する県です。これを背景として、荒井知事がイニシアティブをとって一般の方々が奈良県の芸術文化を体験できる施設を作る構想を具体化する為に有識者会合を

作られ、その一員を私が務めてきました。従って今回、なら歴史芸術文化村がオープンしたことを大変嬉しく思います。今後重要なことは、この施設をしっかり活用していくことです。

開村に寄せて

滋慶学園グループ総長 浮舟 邦彦



開村、お慶び申し上げます。奈良の文化にふれ、学べる、そして何よりも予想以上に体験型の施設になっている点に面白さを感じています。なかでも文化財の修復を学べて体験できることは、世界に誇れる文化を次世代に伝えるという意味で重要だと思えます。奈良県産の食材を使った「食育」や若いクリエイターの活動の場もあり、県内や国内はもちろん、広く海外から若い人たちが集い、交流する場になって欲しいと期待しています。

新たな分野の開拓に期待

東京大学大学院教授 小林 真理



人類文化の発展に持続的に貢献していくため、文化を遺す↓創る↓送り出す↓受け取るというサイクルが大事だと考えています。文化を遺す上で、とりわけ重要な役割を担うのが文化財です。文化財の価値は、目の前で見えている完成されたモノやカタチだけではなく、それを存在させている技術や人間の技にあります。過去の技術や技が新しいものより劣っているわけではありません。保存し続けるために修復するというプロセスが見られることは、それらを見直し、気づき、活かすことを含めて、新たに考える場となることを意味していると思います。他にない役割を担っているなら歴史芸術文化村が新たな分野を切り開いていくことを期待しています。

メッセージを頂戴した5名の顧問に、大沼淳氏（学校法人文化学園理事長）を加えた6名の委員による「なら歴史芸術文化村構想等検討委員会」（当初は「奈良県国際芸術家村構想等検討委員会」）において、広い視野、様々な視点からご助言いただきましたことに感謝いたします。皆様には、引き続き顧問として大所高所からのご意見を賜りたく存じます。尚、大沼委員は、2020年11月21日に逝去されました。心よりお悔やみ申し上げます。

文化村でみんなが学ぶ

歴史文化に関する取り組み

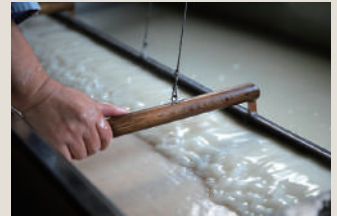
●文化財の継承

文化財は古くから伝わってきたものが多くあり、残したいと守り伝えた人、それを受け継ぎ修理を行った人など、思いが繋がり続けることで今に伝わっています。

修理には高度な技術や伝統的な材料・道具が使われています。しかし産業や生活様式の変化によって手仕事による材料・道具の需要が低下したため、品質維持の難しさや後継者不足など、多くの問題に直面しています。

先人たちの多大な努力によって残されてきた文化財をさらに後世に継承するために、私たちはどうしていけばよいでしょう。

それぞれの時代に合わせた継承の形を、文化村で一緒に考えてみませんか？（歴史文化係 栗原典子）



文化財の修理に使われる宇陀紙の紙漉き

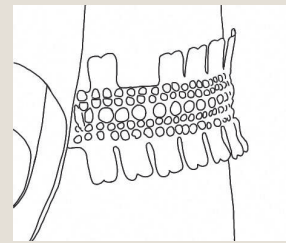
●仏像鑑賞のポイント

仏像を前にしたとき、まずどこに目を向けますか？

お頭、お顔、お身体…見るべきところは沢山あります。中でも私は“臂釧（ひせん）”に注目しています。臂釧は仏像の二の腕部分に付ける飾り（アクセサリ）です。

ひとくちに飾りといってもそのデザインは様々。連珠文や杉綾文、中には植物文をあらわすものも。私たちのファッションに流行があるように、臂釧のデザインも時代によって異なります。つい見逃してしまいそうな仏像の細部も、時にはその制作年代を知る手がかりになります。

自分ならではの楽しみ方を見つけることから、文化財に興味をもってもらえれば嬉しいです。（歴史文化係 中井夏帆）



奈良・法華寺 十一面観音菩薩像

臂釧部書き起こし図：この臂釧は、連珠文帯と列弁帯で構成されています。簡略的な文様表現が主流となるのは9世紀半ば以降の特色です

芸術文化に関する取り組み

●就学前教育の取り組み

子どもの頃から失敗、成功、挑戦など様々な体験を重ねる事が生きる力に繋がります。そこには、それを受け止める大人の存在も重要になります。

結果ではなく過程を認められることは、自己肯定感が養われ、自分も他人も認めることに繋がります。

文化村での幼児向けアートプログラムでは、紙やペンは勿論、木や葉っぱなどの自然物、和紙や墨など奈良ゆかりの素材に向き合い、ふれる事で、奈良の新しい魅力を発見、体験してもらいたいと考えています。

子どもの表現と過程を尊重した関わりを大切にしたいと思っています。

（芸術文化係 松長大樹）



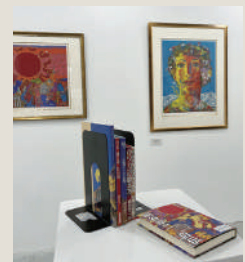
「光のあそび」透明、不透明、様々な素材を使って光と影の世界を体験

●地域の芸術活動との連携

文化村では、アーティストならではの目線や切り口で表現した作品を通じて、地域と繋がるプラットフォームとなることを目的としたアーティスト・イン・レジデンス事業を実施します。

これまでに天理市が行ってきたモデル事業の取り組みを継承し、さらには桜井市などとも連携することで、さらに発展させていきたいと考えています。

今後、さまざまなジャンルのアーティストが、奈良県に滞在し、奈良の魅力を掘り起こすことでしょう。もし、そんなアーティストに出会った時は、ぜひ、地域の魅力を伝えてください。（芸術文化係 北村良子）



天理市と連携し、「文化勲章受章記念 網谷幸二版画展」を開催2021年11月1日～14日 TARN(天理本通り商店街内)

文化村からつながる、文化村から広がる

地域連携の取り組み

● 応援者たちが文化村をサポート

なら歴史芸術文化村が、天理市杣之内町にオープンします。開村にあたり、地元の天理市をはじめ中南和地域の首長や商工関係者、ボランティア団体など多くの方々とお会いしました。その過程で、地元の人たちの熱気には感激しました。

施設には、交流にぎわい棟での農産物や伝統工芸品の直売所をはじめ、レストランや道の駅「なら歴史芸術文化村」などが設けられます。農産物の出店希望をはじめ、何らかの形で文化村を応援したいという支援チームのようなものが自然に出来てきました。スタッフとして100人規模の採用を行いました。7割が天理市民で、この人たちが文化村を支えてくれます。

● 奈良を発信する重要拠点として

奈良といえば、奈良公園をはじめとする古都・奈良と法隆寺などが有名で、これまで中南和地域には、スポットライトが当たりませんでした。

しかし中南和地域は、日本の歴史にとって重要な役割を果たした地域であり、また、豊かな自然の中にさまざまな史跡や文化遺産があります。これら中南和地域の情報発信も大きな課題です。情報発信棟では中南和地域の魅力を発信していきたいと思えます。

文化村は文化財修復体験など、たいへんユニークな施設です。来て、見て、感じて、楽しんでいただきたいと思えます。（なら歴史芸術文化村指定管理者総括責任者 福原稔浩）



数多くの地元農産物のラインナップ

コラム

● 奈良ゆかりのアーティスト

当施設のソフトプログラムを検討するにあたり、奈良県にゆかりのあるアーティストがたくさんおられることがわかりました。彼らは、それぞれの感性で奈良県の歴史文化を表現しています。

奈良ゆかりのアーティストが、歴史文化を芸術文化で表現するという当施設ならではのプログラムが、県民にとっては新たな奈良県の魅力発見に、さらには郷土の誇りに繋がることを期待しています。

● 大学との連携

なら歴史芸術文化村では、歴史芸術文化を支える人材の育成等を目指し、教育機関との連携に力を入れています。

これまでに天理大学、立命館大学アトリサーチセンター、奈良県立大学、東京藝術大学（R4.3.26予定）との連携協定を締結したところです。

これからも、国内外の大学と連携しながら、共同研究を深めるとともに、展示や公開講座等、幅広い取組を進めていきます。



天理大学との連携協定締結式（令和元年7月4日）

● JNO（Japan National Orchestra 株式会社）との連携

Japan National Orchestra 株式会社をご存じでしょうか？ 2021年第18回ショパン国際ピアノコンクールで日本人として51年ぶりの最高位第2位を受賞した反田恭平氏を代表取締役として、日本初のオーケストラのための株式会社が、奈良の地に設立されました。

奈良県とJNOは、文化活動の振興により、互いの発展、地域の活性化や魅力向上を図るため締結した連携協定に基づき、今後、音楽活動の充実や交流の促進などに、ともに取り組んでいく予定です。なら歴史芸術文化村も、しっかりとその取組の輪に加わっていきます。



JNOとの連携協定締結式
（令和4年2月28日）

来村者にやさしい文化村で楽しい体験

文化村って、どんな施設？

文化財の展示、芸術とのふれあい、さらには農産物や工芸品の販売、レストラン、屋外体験ゾーン、サイクルステーションなどなど…。

なら歴史芸術文化村は、いろいろな機能がある複合施設です。

そんな文化村をどのように楽しめばいいのか？ 楽しみ方のポイントをご紹介します。



■ 交流にぎわい棟

地元産食材を使ったレストラン、地元産農産物や伝統工芸品の販売など奈良にこだわったお店がお客様をお迎えします。

■ 屋外体験ゾーン

展望デッキから大和平野を一望！夕日が沈む夕暮れ時がおすすめです。

屋外体験ゾーン

■ 情報発信棟

交通情報や周辺観光情報をチェック！コンシェルジュも情報収集のお手伝いをします。

情報発信棟

文化財修復・展示棟

スロープ

芸術文化体験棟

■ 芸術文化体験棟

「アーティストの作品展示や制作活動の公開をしています。作品を鑑賞するだけでなくアーティストとの交流ができるのも他にはない魅力です。他にも「あそび」を通じてアートや音楽を体験する幼児向けの芸術プログラムを行っています。もちろんホールでのイベントも要チェックです。

■ 文化財修復・展示棟

「工房 & 展示解説ツアー」を実施しています。約1時間をかけて棟内の4つの工房と企画展示をナビゲーターと対話しながら見学できます。他にもいろんなイベントがありますので、ホームページなどで日時を確認してみてください。

文化村を思いっきり楽しんだら、奈良をもっと好きになっちゃっているはず！また来たいなあって思ってもらえる施設を目指します。
(施設運営係 奥中祥江)

【開館時間】

文化財修復・展示棟

- 開館時間：9:00～17:00

芸術文化体験棟

- 開館時間：9:00～20:00

交流にぎわい棟

- 開館時間：9:00～17:00
※レストランは9:00～20:00
- 休館日：月曜日 ※祝日の場合は、翌平日が休館
※レストランは月曜日も営業 ※情報発信棟トイレを除き、12月28日～翌年1月4日は休館
- 入館料：無料 ※催しにより有料の場合有

情報発信棟

- 開館時間：9:00～17:00
※トイレは24時間



なら歴史芸術文化村

〒632-0032 奈良県天理市杣之内町 437-3
TEL 0743-86-4420(代表)

WEB <https://www3.pref.nara.jp/bunkamura/>

※感染症対策にご協力ください。



©NARA pref.



JR・近鉄天理駅よりシャトルバス運行または、奈良交通バス「勾田」下車 徒歩15分